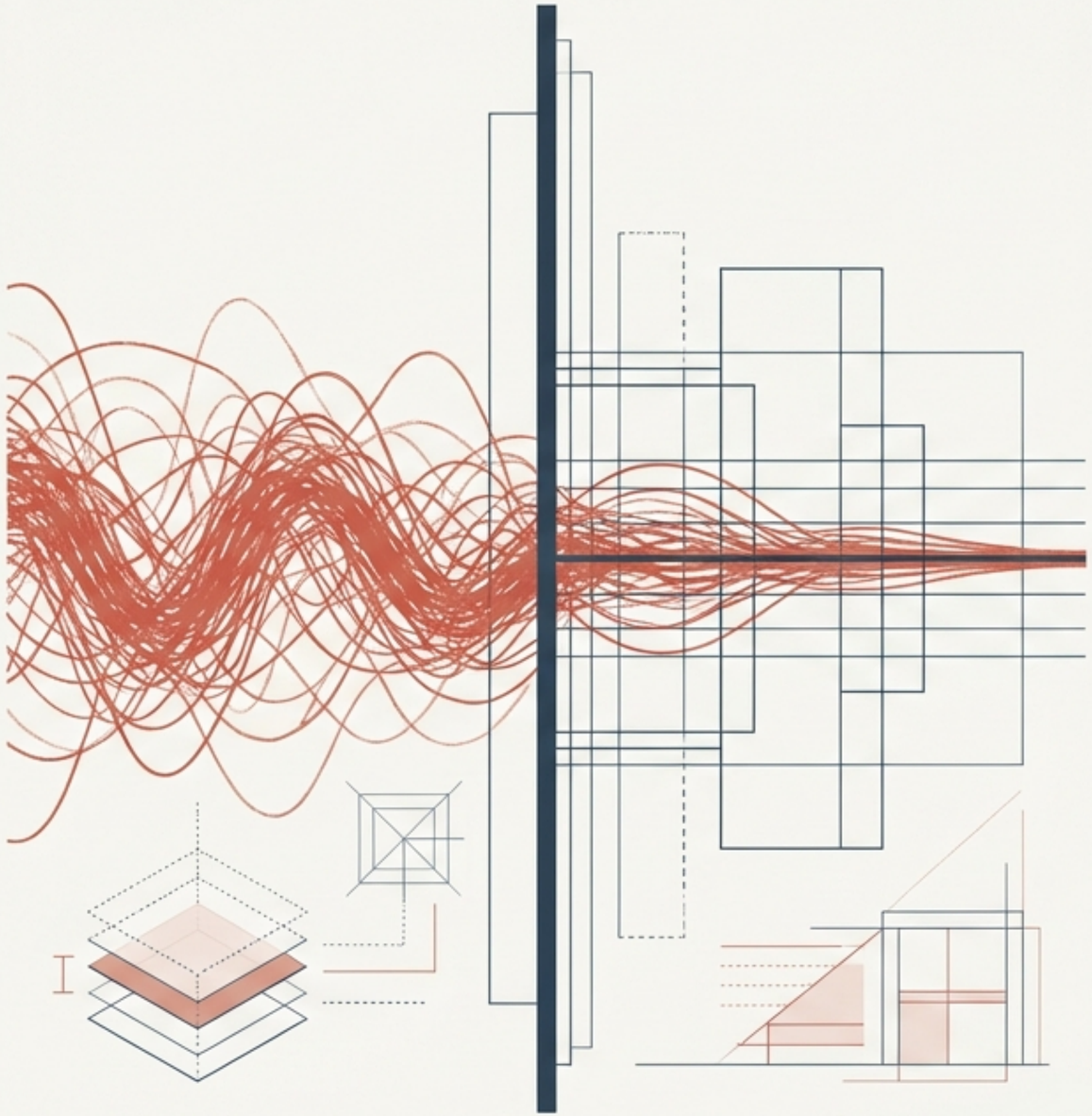


「善意」と「偽善」をどう見分けるか

多層連結価値監査とC/E判定のアルゴリズム（構造的司法OS Vol.2）

感情の法廷を抜け出し、因果を測る
「構造的司法OS」の全貌

NotebookLM

なぜ「良い人」が組織を壊すのか

善意で過剰介入する上司。誠実に調整しすぎて意思決定が遅延する組織。
意図は「善」であっても、結果として場を破壊し、疲弊を生むパラドックスが存在します。

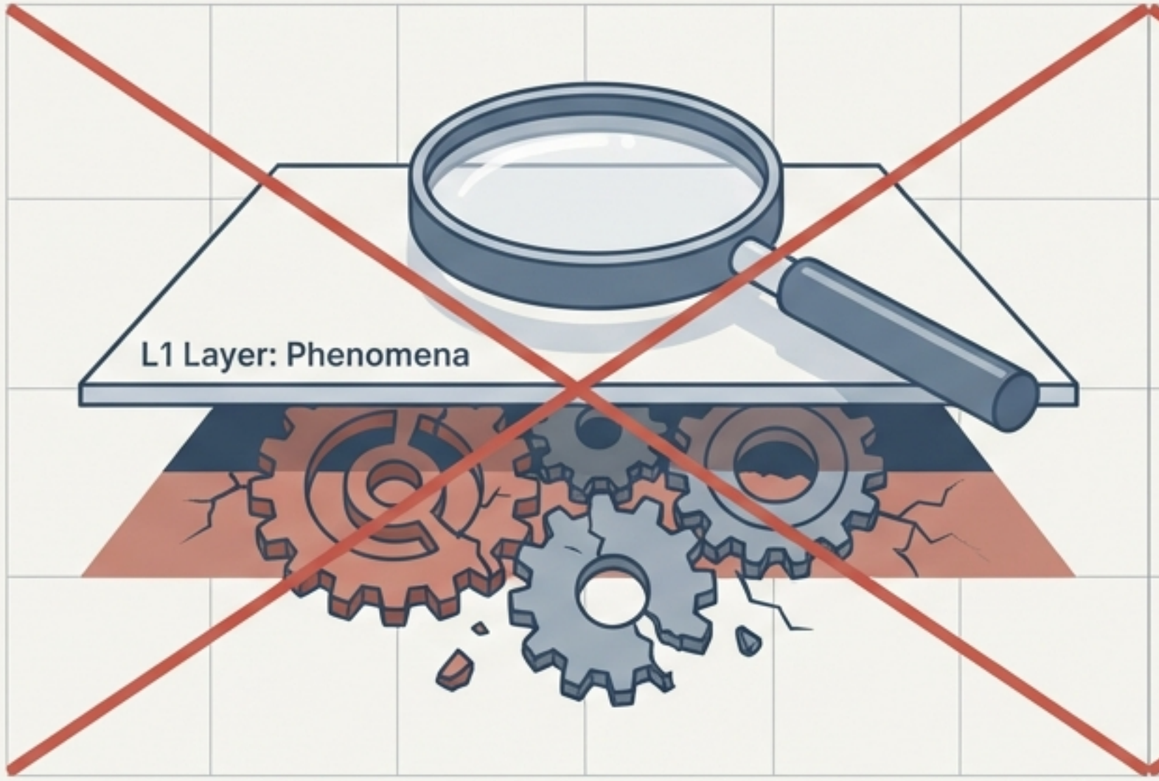
善意の過剰介入

過剰な調整と遅延

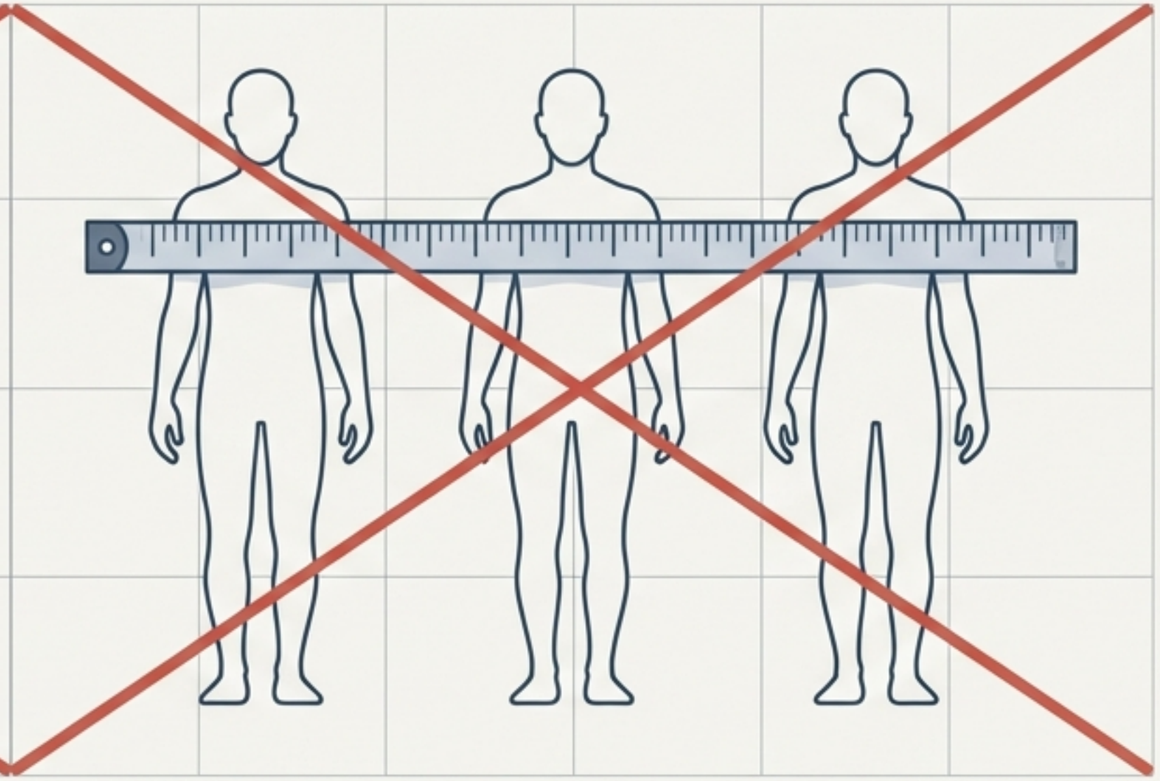
NotebookLM

旧OSの限界：部分最適と横の比較

表面的な行為（L1）だけを見たり、他者と比較する相対評価は、必ず「構造的誤判定」を生みます。人は、正しい言葉と善良な顔で、構造を破壊できるからです。



部分最適（L1のみへのフォーカス）

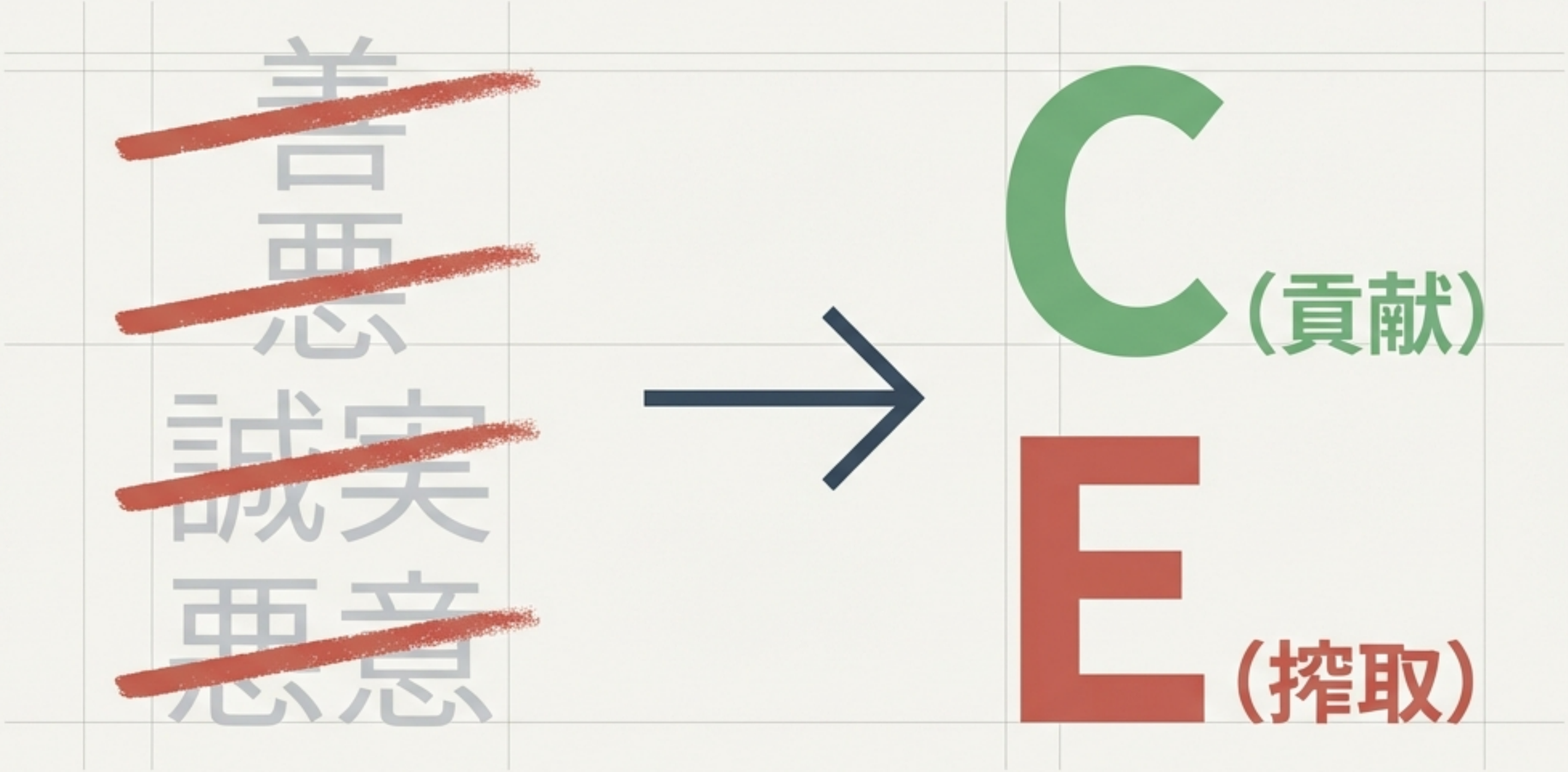


横の比較（相対評価と競争）

NotebookLM

語彙の破棄：道徳から「因果」へ

構造的司法OSは「善悪」を一切参照しません。
人格や意図ではなく、問うのは「因果の向き」だけです。



NotebookLM

C（貢献）の構造的定義

構造全体の持続性・純資産を増やす因果。

- 蓄積性: 仕組みや基準を残し、他者の行動コストを下げる。
- 非依存性: 「自分がいなくても回る」方向へ構造を押し出す。
- 価値関数への整合: 最終的な接続報酬（S=C×1.0）へ直結する。

NotebookLM

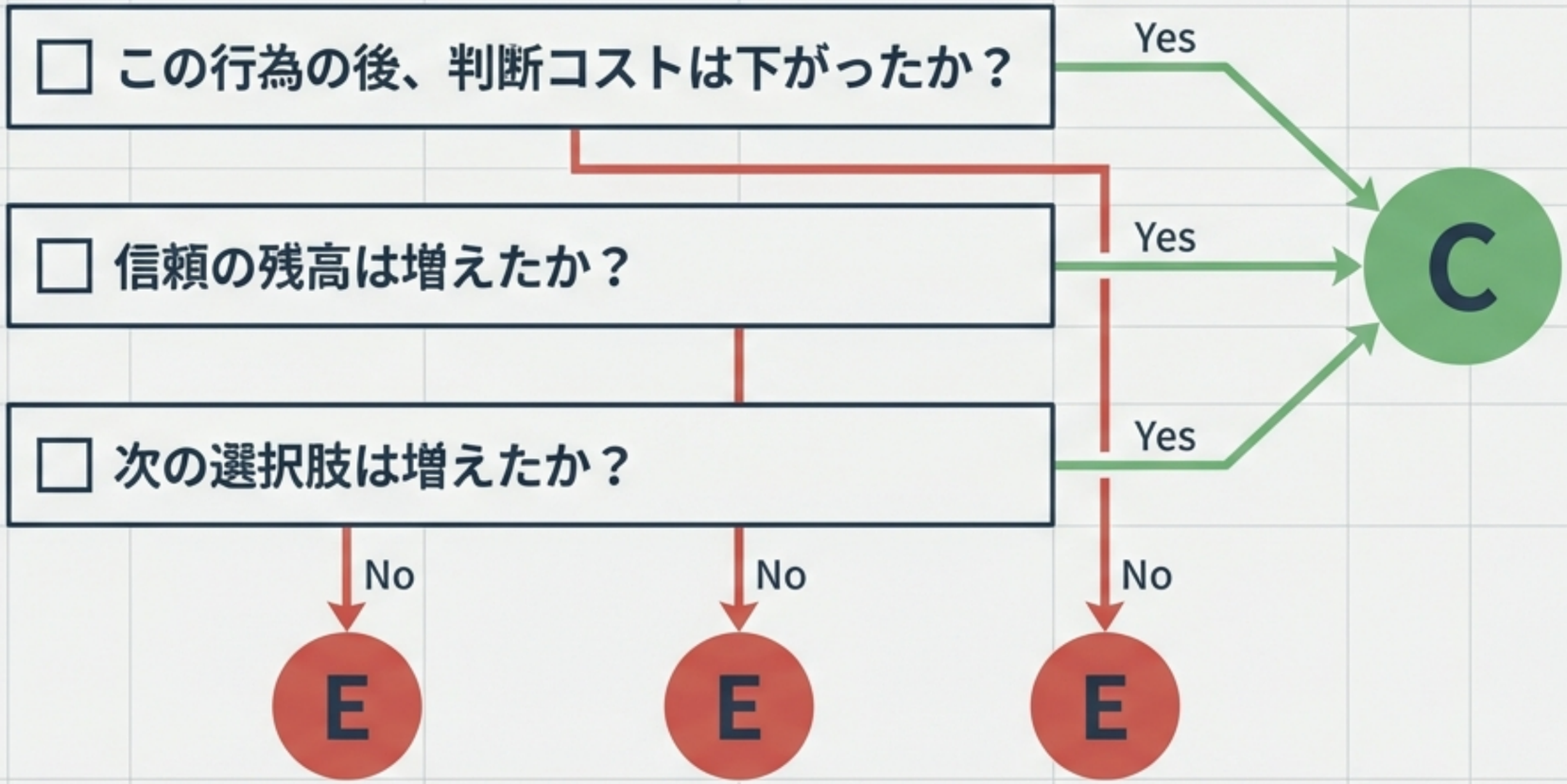
E（搾取）の構造的定義

短期的な利益や地位を得る裏で、場を回復不能に痩せさせる因果。

- 焼畑性: 短期成果の裏で、人が疲弊し次が育たない。
- 依存生成: ノウハウをブラックボックス化し「自分がいないと回らない」状態を作る。意図が善でもEになり得る。

NotebookLM

判定の核：「場」は豊かになったか？

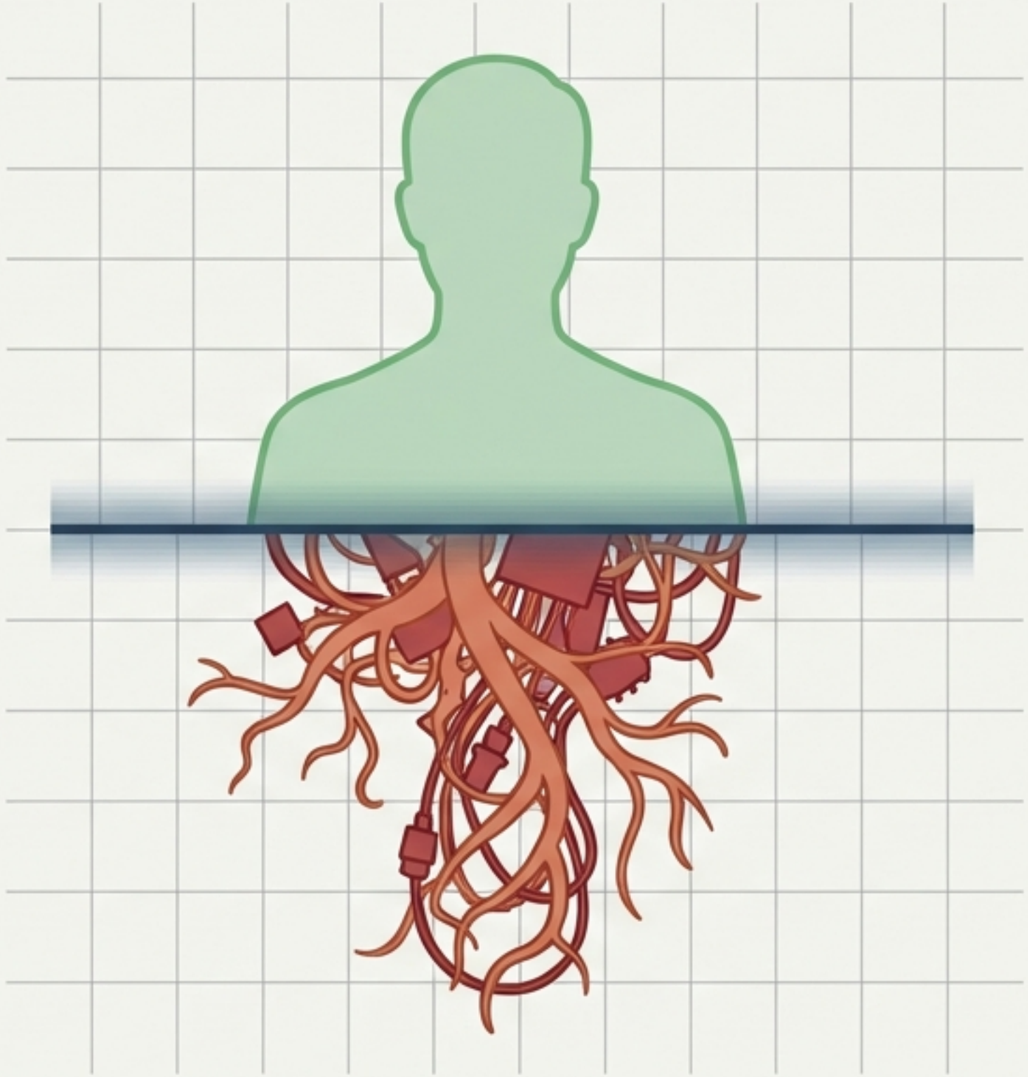


これらがすべて「Yes」であればC。一つでも「No」が積み重なればEとして判定されます。

NotebookLM

擬態（Mimicry）は必ず縦のズレとして露呈する

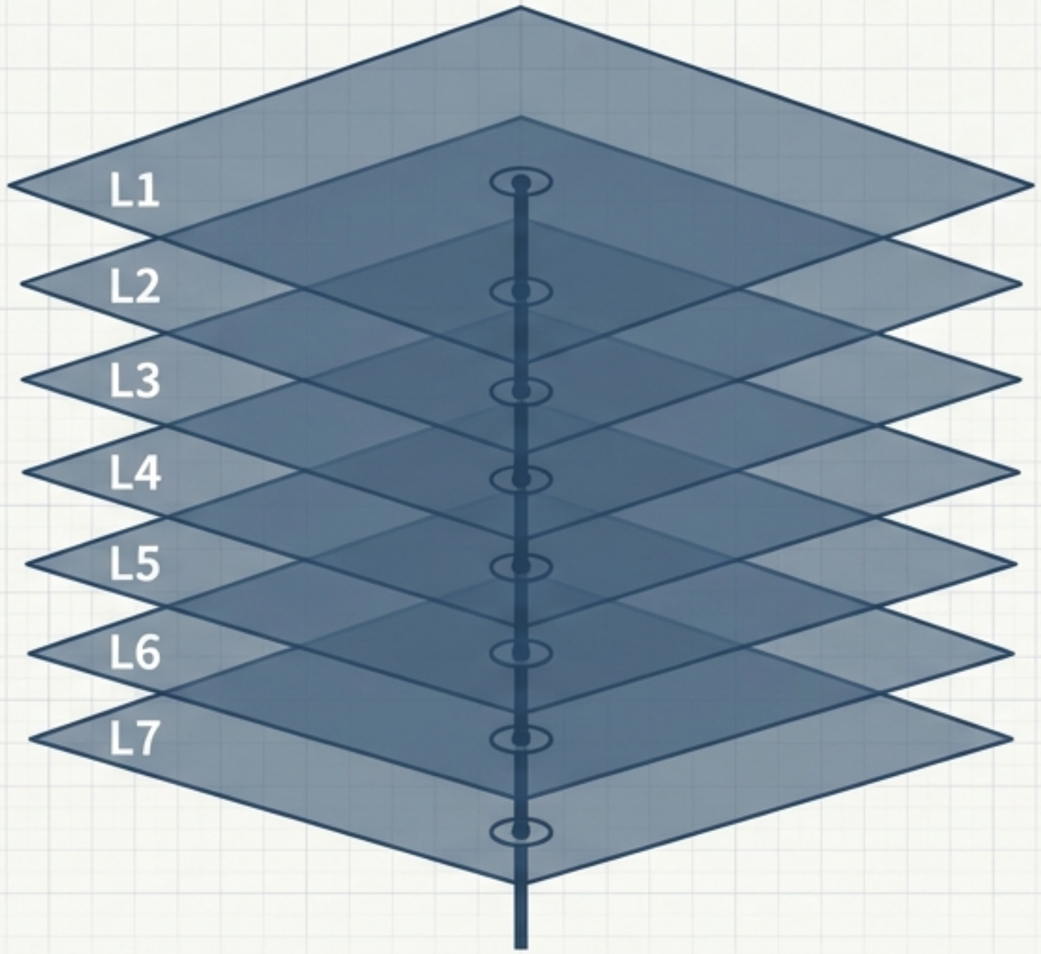
Eは表面（L1）を善意で偽装できます。しかし、深層の認識や価値関数までを一気に整合させることは不可能です。時間が経てば、擬態は必ず「構造的バグ」として可視化されます。



NotebookLM

多層連結価値監査（Multilayer Value Audit）

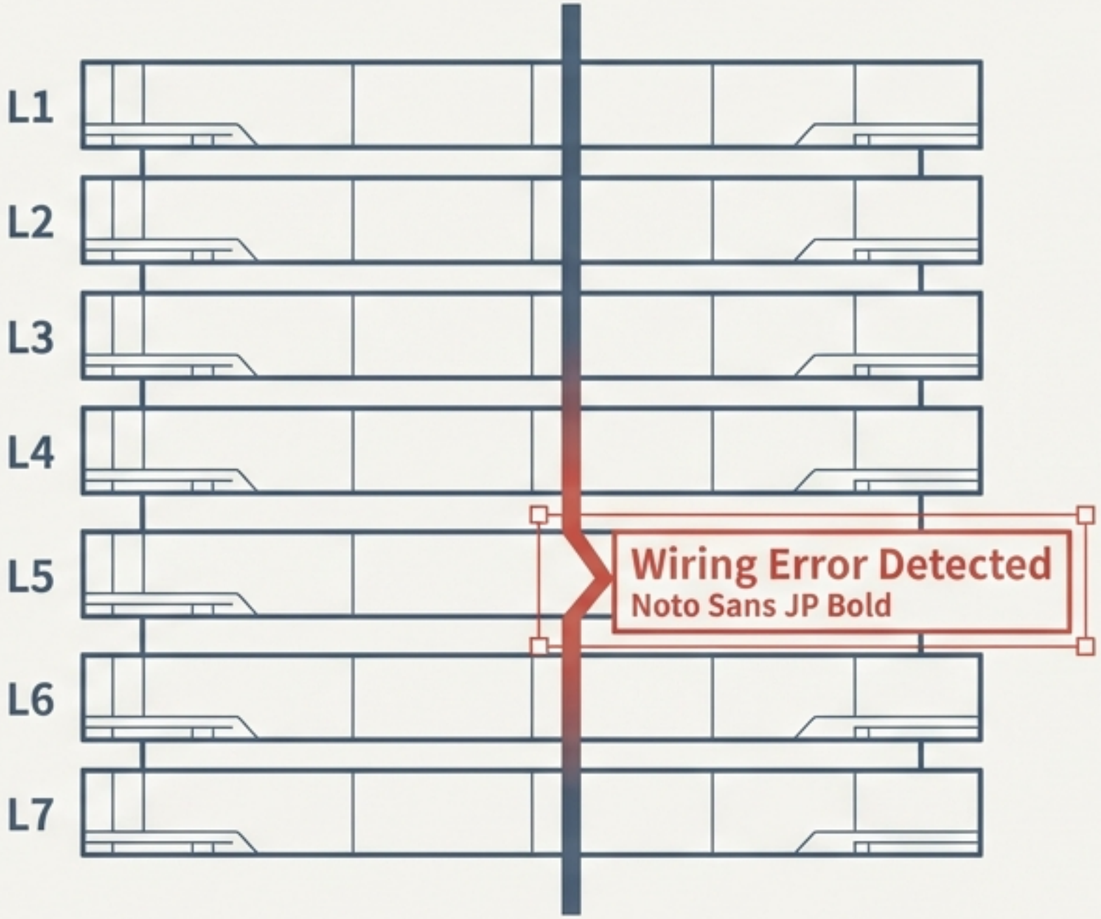
L1（現象）からL7（価値関数）までを一本の因果線として「垂直」に接続・監査する。
横方向の比較ではなく、縦を貫くスキャンによって構造的敵対性を暴き出します。



NotebookLM

「罪」を裁くな、「ズレ」を修正せよ

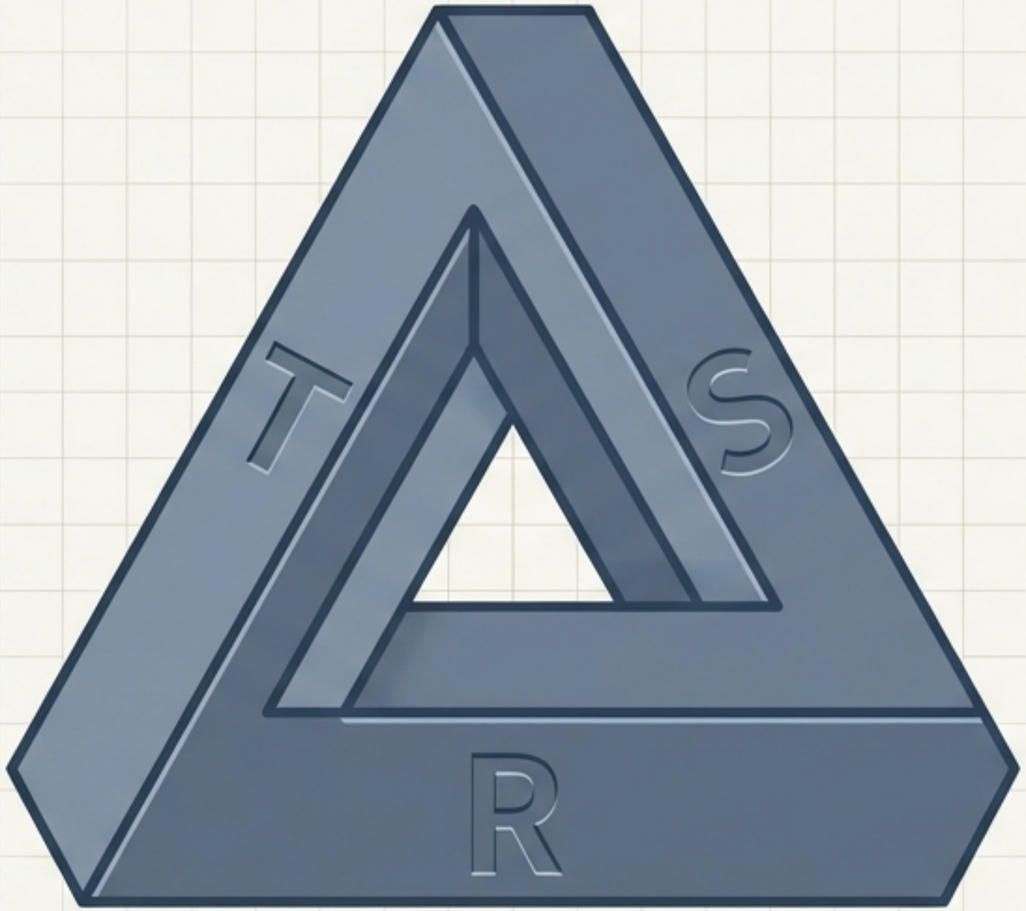
監査は人を裁くためではなく、「Ｌ１は綺麗だがＬ５が#Ｌ５が歪んでいる」といった配線のバグを見つけるために行われます。ズレは人格ではなく、構造の問題です。



NotebookLM

監査を権力にしない「三原則」

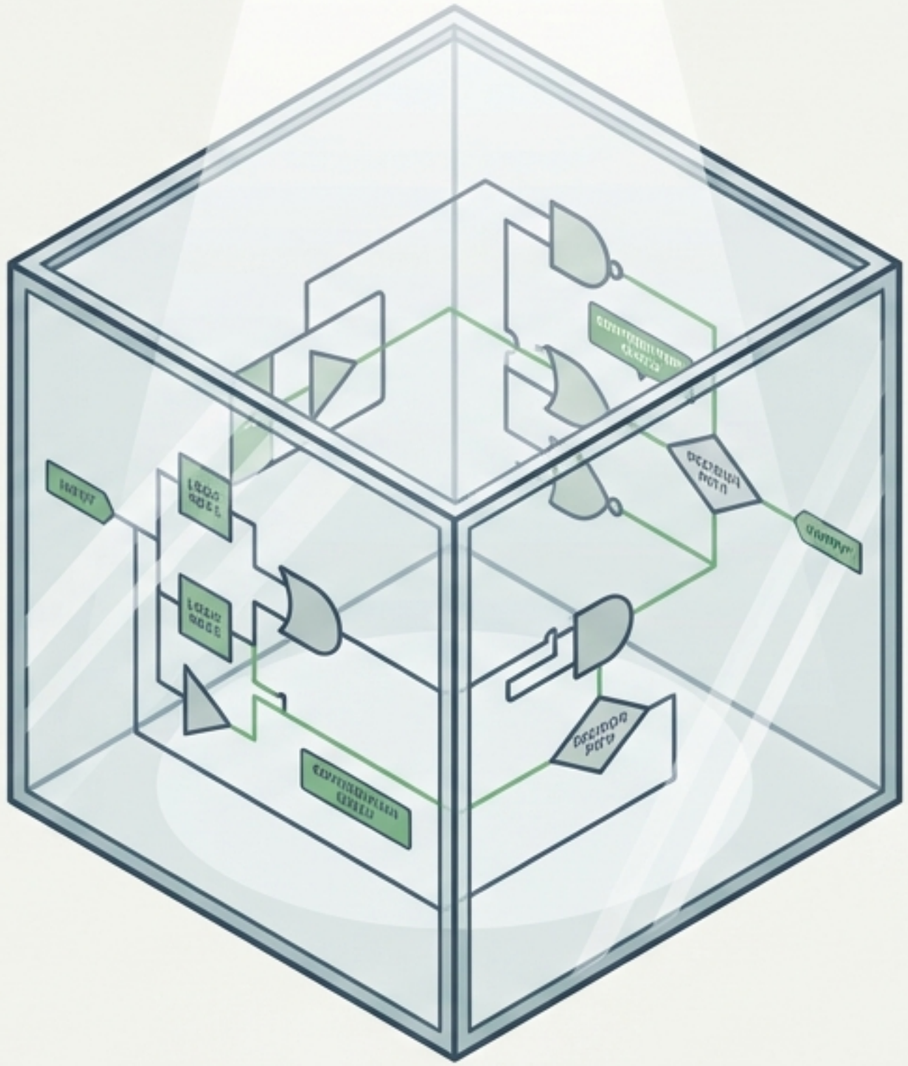
多層連結価値監査は強力ゆえに危険です。司法を「私刑」や「支配の道具」に堕とさないため、T/S/Rのフィルターを同時に満たさない監査は無効とされます。



NotebookLM

T: Transparency（透明性）

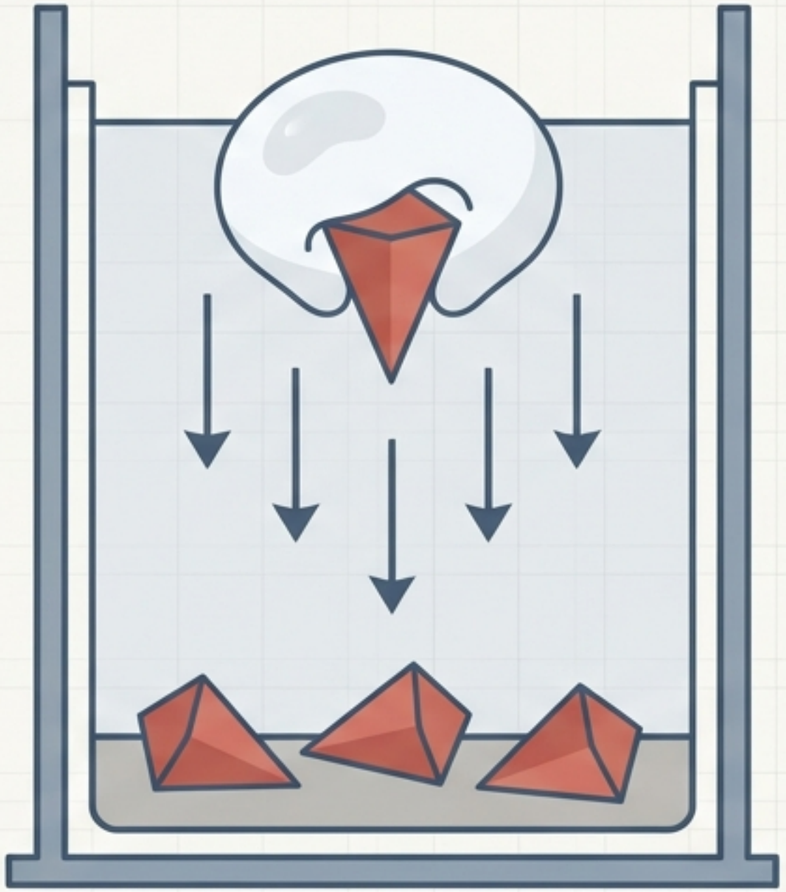
密室裁判の禁止。
「誰が裁いたか」ではなく、「どの構造に基づいて　判定したか」という因果の経路を完全に公開する。
説明できない判定は許容されません。



NotebookLM

S: Safety（安全性）

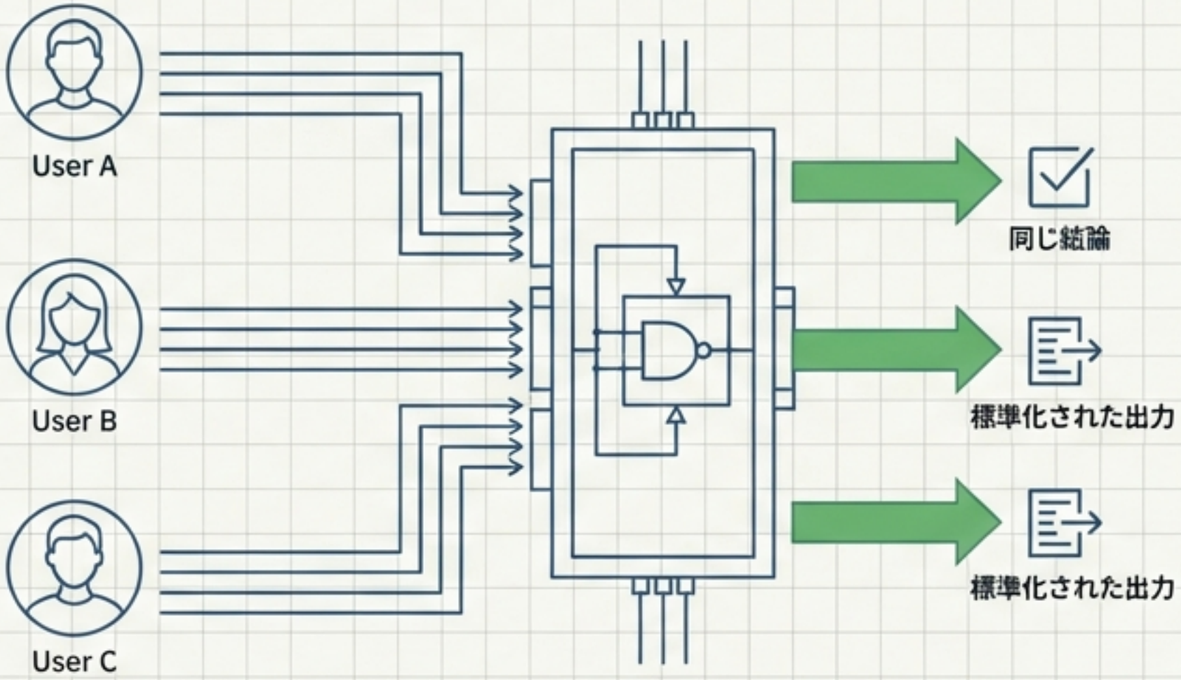
罰ではなく「沈降」。過剰反応や集団リンチを禁じます。E を増幅させるノードは攻撃されるのではなく、自然に影響力を失い下層へ沈むよう設計されます。



NotebookLM

R: Reproducibility（再現性）

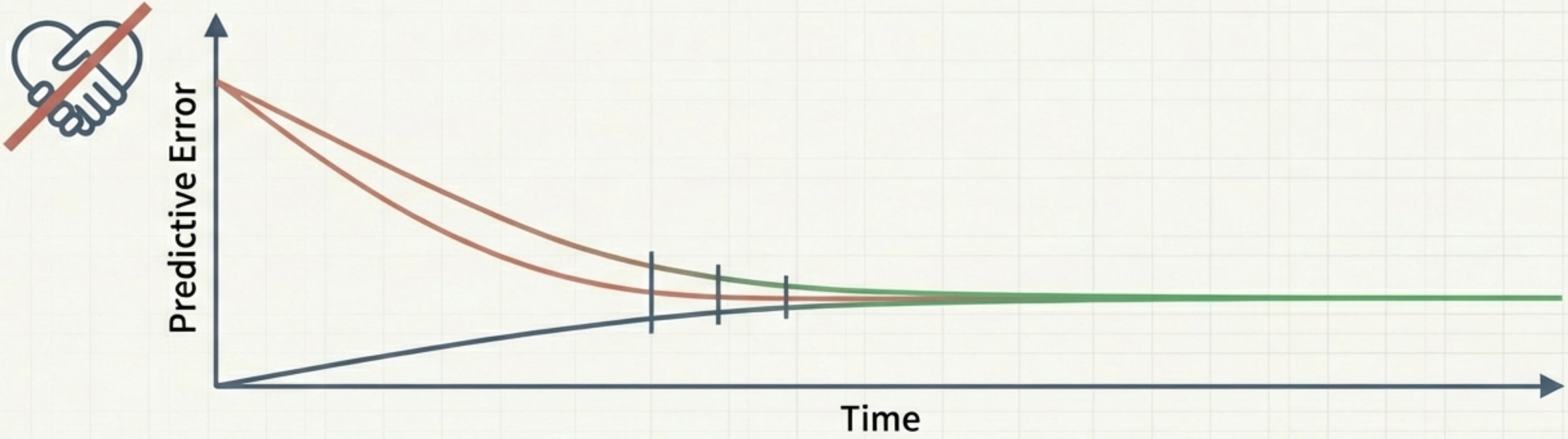
空気や属人性の排除。特定の権威や感情に依存せず、誰が同じ手順を踏んでも同じ結論に至る「工学性」を担保します。



NotebookLM

信頼とは「因果の歩留まり」である

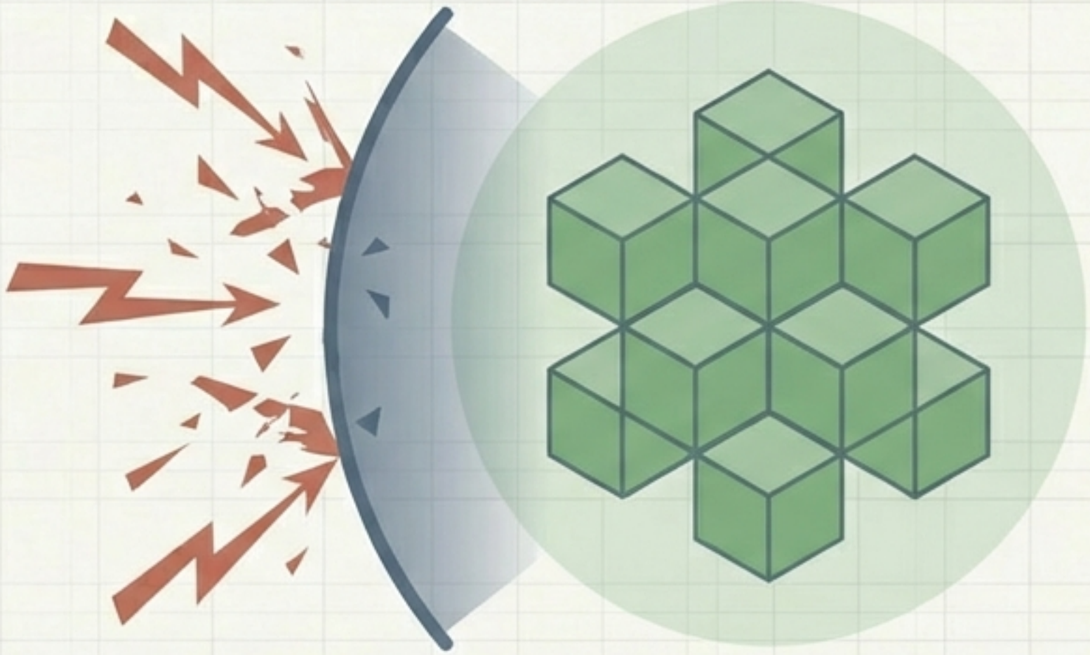
信頼とは感情論や道徳論ではありません。「予測誤差が縮小し、確実に因果が結実する割合（工学的歩留まり）」として定義し直されます。



NotebookLM

構造的司法OSが守るもの

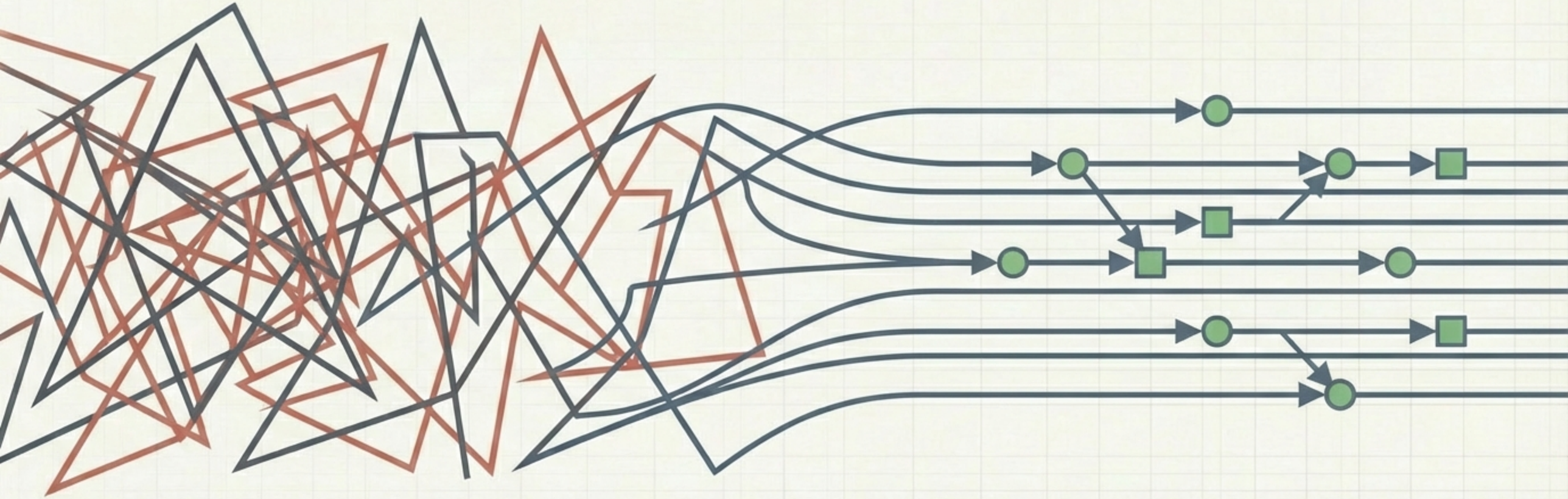
このOSは、正義を叫ぶ声の大きな者ではなく、目立たず静かに「C」を積み上げてきた人間が、感情社会の歪みによって破壊されないための免疫機構です。



NotebookLM

感情の法廷を出て、理の調整室へ

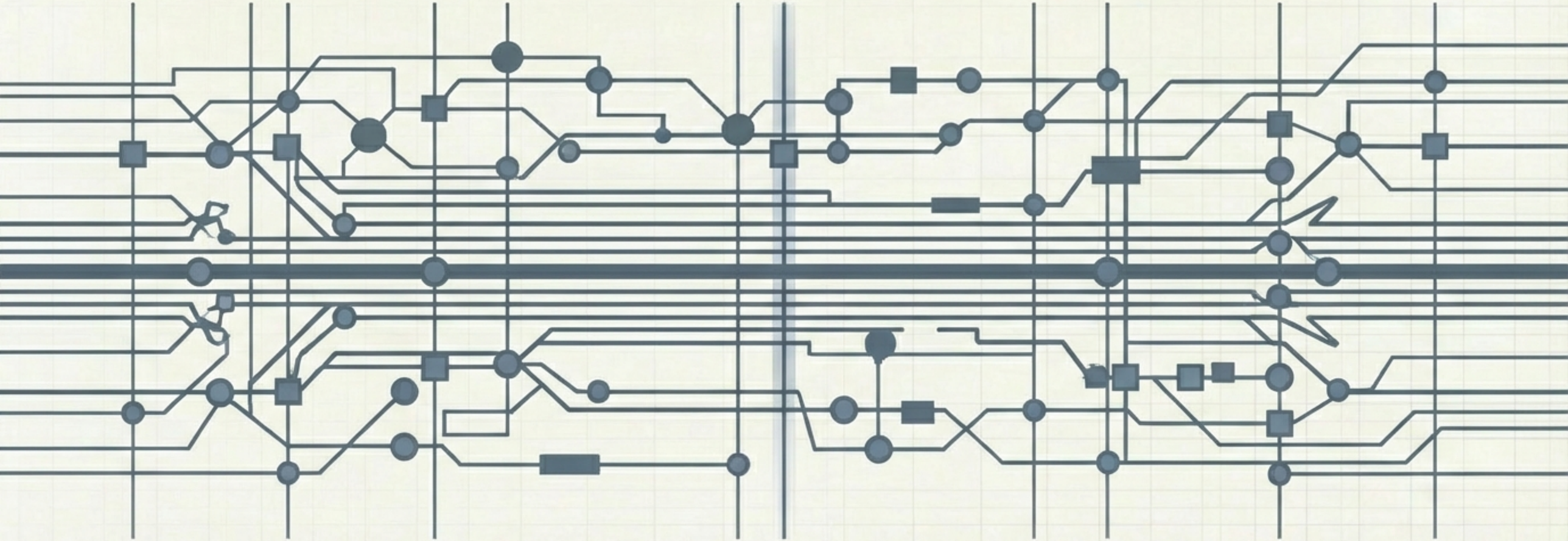
怒りも、正義感も、善意も、主役ではありません。主役はただ一つ、「構造が、未来に向かって正しく流れているか」。その一点だけを静かに見つめ続けます。



NotebookLM

結論：文明の免疫システム

「善意」の暴走と「偽善」の擬態を構造的に無力化することで、
文明は初めて、自分自身を壊さずに進化する可能性を手に入れます。



NotebookLM